



シルクスクリーンってなに？

メッシュ状の版に加工をして、インクが通る部分・通らない部分を作り図案を印刷する手法をシルクスクリーンと呼びます。孔版印刷の一種で、デジタル孔版印刷のリソグラフとは親戚のような関係です。gamoyon Art labo では、簡単に製版ができて気軽にシルクスクリーンを楽しむことができる、「SURIMACCA」を使ったご案内をしています。

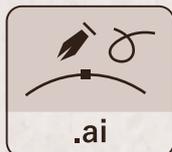


SURIMACCA ってなに？

レトロ印刷 JAM が開発した SURIMACCA(スリマッカ)は、誰でも簡単にシルクスクリーンができるキットです。ブロックのようにパーツをつなぎ合わせると、あっという間にシルクスクリーンフレームになります。組み立ても版張りも簡単、豊富なオリジナルインクも楽しいシルクスクリーンキットです。

製版用原稿のポイント

ファイル形式



解像度は
300 dpi

テキストはアウトライン化を忘れずに&画像のリンク切れに注意

1. 黒だけで作る

K100% OK

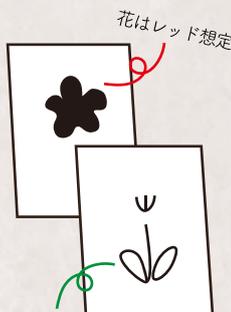
K50% X

K100%
ハーフトーン
OK

原稿は グレースケールの黒1色で

黒で描画された部分がインクの通る孔になります。濃度の差もある程度は再現されますが、原稿によっては製版・印刷がうまくできないことがあるため、なるべく濃淡を付けずに K100% で作成してください。もし濃淡をつけたい場合は、ハーフトーン化がおすすめです。

2. 多色刷りの時は...



色ごとに分けて 原稿を作ろう

2色以上で印刷したい場合、原稿は色ごとに分けて作ってください。(色ごとに製版するのが基本です) インクは重なると混色するので、色が重なる箇所・重ならない箇所を作るとより楽しめます。

3. 実寸大で作る



印刷するサイズで 作ってください

原稿は必ず実寸大で作成してください。また、使用予定の製版サイズの印刷範囲をご確認の上作成してください。データで作成される場合は、HP(Gallery ページ)にて配布しているテンプレートをご使用ください。

4. 細かい絵柄は注意



細かい線やヌキは 出ないことも

線幅は 0.35mm(データでは 1pt) 以上がおすすめです。それ以下でも製版はできますが、上手く印刷できなかつたり目詰まりを起します。白抜きの場合はより太めの線をおすすめします。

